

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分
 【発行日】平成 17 年 7 月 7 日 (2005.7.7)

【公開番号】特開 2001-233367(P2001-233367A)
 【公開日】平成 13 年 8 月 28 日 (2001.8.28)
 【出願番号】特願 2000-43650(P2000-43650)
 【国際特許分類第 7 版】
 B 6 5 D 43/16
 F 1 6 C 11/12
 【F I】
 B 6 5 D 43/16 A
 F 1 6 C 11/12

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 11 月 5 日 (2004.11.5)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

円筒状のキャップ本体と円筒状の蓋との外壁をヒンジで一体に連結した合成樹脂製の蓋付きキャップであって、

前記ヒンジは、キャップ本体及び蓋の円筒状の外壁に対し半径方向から接合するように形成され、一又は一対の剛直な主ヒンジと、略均一な厚さの弾性膜部分とからなり、前記主ヒンジは、蓋の開の状態において、開いた上面が略平坦な面となり、キャップ本体と蓋との中間位置で横切る方向に折り曲げ自在であり、また、前記弾性膜は、その一端部は前記主ヒンジの外側に沿って一体に形成されており、蓋の開の状態において、その他端部は一端部から下方外方に向かって傾斜した部位にあり、側面視で水平または僅かに上方に湾曲していることを特徴とする蓋付きキャップのヒンジ構造。

【請求項 2】

前記弾性膜は、平面視で略梯形状を呈していることを特徴とする請求項 1 に記載の蓋付きキャップのヒンジ構造。

【請求項 3】

前記ヒンジは、蓋の開の状態において、主ヒンジの外側面間の長さ L が該ヒンジの連結方向の長さ M に対し略 1.5 倍又はその長さを越えない長さを有することを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の蓋付きキャップのヒンジ構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0005
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項 1 の発明では、円筒状のキャップ本体と円筒状の蓋との外壁をヒンジで一体に連結した合成樹脂製の蓋付きキャップであって、前記ヒンジは、キャップ本体及び蓋の円筒状の外壁に対し半径方向から接合するように形成され、一又は一対の剛直な主ヒンジと、略均一な厚さの弾性膜部分とからなり、前記主ヒンジは、蓋

の開の状態において、開いた上面が略平坦な面となり、キャップ本体と蓋との中間位置で横切る方向に折り曲げ自在であり、また、前記弾性膜は、その一端部は前記主ヒンジの外側に沿って一体に形成されており、蓋の開の状態において、その他端部は一端部から下方外方に向かって傾斜した部位にあり、側面視で水平または僅かに上方に湾曲していることを特徴とするものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項2の発明では、前記弾性膜は、平面視で略梯形状を呈していることを特徴とするものである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

弾性膜5は、一対の主ヒンジ4、4の夫々の外側に一体となって接続されており、蓋の開の状態、全体として下方外方に向かって傾斜しており、その最外縁5Aは側面視（図7参照）で水平又は僅かに上方に湾曲している。また、弾性膜5は略均一の厚さeを有する薄板状で、薄くすることにより材料の弾性を効果的に利用しており、平面視（図5）で略梯形状を呈している。弾性膜は主ヒンジの外側とキャップ本体1又は蓋2の各外周壁に固定されているので、両者に接する弾性膜の部位は歪みにくい部分となっていて蓋の回転に伴う反転動作を助勢している。